



コミュニティFMで自衛隊を紹介

自衛隊東京地方協力本部港出張所（所長 山本3陸佐）は7月22日、中央区のFMラジオ局「中央エフエム」の番組に出演し、自衛隊の活動等を紹介した。

中央エフエムは、中央区をはじめ、隣接する千代田区、港区、台東区、墨田区、江東区等で聴取でき、中央区唯一の地域コミュニティFMとして地域に根差した情報を発信している。

今回は、情報番組として地域のタイムリーな情報を発信している番組「Hero! RADIO CITY」内で「知れば知るほど頼もしく思える自衛隊についてリスナーに知ってもらおう」ことをコンセプトに始まった新コーナー「なぜなに もっと教えて自衛隊！」に港出張所長の山本3佐が出演した。

山本所長は、幼い頃に映画「ゴジラ」を見て自衛隊の存在を知り、高校生の時に「人の役に立ちたい」と思い防衛大学校への進学を決めた自身のエピソード等を紹介した後、「東京オリンピック2020」にちなみ、「自衛隊とオリンピック」をテーマにこれまでのオリンピックに出演した自衛官や前回の東京オリンピック開会式ではブルーインパルスが上空に五輪マークを描き、音楽隊による演奏や防衛大学校の学生が参加して各国のフラカードを掲げる等の支援を実施したこと、その後の札幌オリンピックや長野オリンピックにおいて自衛隊が実施した支援内容について紹介した。

港出張所は、今回のラジオ出演がリスナーに自衛隊を身近な存在として感じてもらう絶好の機会として、引き続き、今後の紹介テーマを検討中であるとともに、ラジオ出演の他にも各種広報イベント等を通じ、一人でも多くの方に自衛隊の活動に対する理解と関心を高めてもらうため、広報活動を実施していくとしている。



専門学生に政府専用機の勤務を紹介

自衛隊東京地方協力本部豊島出張所（所長 星川1陸尉）は7月28日、都内専門学校からの依頼を受け、客室乗務員を目指す学生等7名に対して採用説明会を実施した。

当日は、航空自衛隊の特別航空輸送隊の空中輸送員、いわゆる客室乗務員として政府専用機への乗務経験があり、現在は世田谷募集案内所で広報官として勤務している加藤2空曹が、特別航空輸送隊の編成や任務、政府専用機での業務内容や民間機の客室乗務員との違い等について紹介するとともに、空中輸送員になった経緯や、必要な資質、また、空中輸送員以外の航空自衛隊の業務や訓練、勤務のやりがい等自らの経験を踏まえて説明した。

参加者からは、「現場で活躍していた方から直接話が聞けて大変貴重な機会だった」「人の役に立つ仕事に就くことを希望しているが、自衛隊の中でも様々な形で社会に貢献できることが分かった」等の声が聞かれた。陸・海・空の各自衛官等約300名が所属している東京地本には、加藤2空曹のように特別航空隊の空中輸送員のほか、多様な経歴を持った隊員が勤務しており、東京地本では、今後もそれらの経験を広く紹介することにより自衛隊の業務に対する理解の促進を図っていくとしている。

